

# 第51回 日本脈管学会総会

今井先生が、一般演題として応募された結果、透析症例が多く貴重な発表と評価され、パネルディスカッションに推挙されました。共同演者として吉岡副院長先生が同行されます。

## プログラム

### 西丸記念講演

座長 矢崎 義雄(独立行政法人 国立病院機構)  
「日本における冠動脈疾患治療のエビデンス ～二次予防から一次予防へ～」  
小川 久雄(熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器病態学)

### 会長講演

笹嶋 唯博(旭川医科大学 外科学講座)

### 招請講演

【海外】  
Pier Giorgio Cao (San Camillo Forlanini-Roma)  
【国内】  
「頭蓋内血管の解剖と生理 —診断と治療への展開—」  
鎌田 恭輔(旭川医科大学 脳神経外科学講座)  
「脈管治療と医療訴訟」  
黒木 俊郎(黒木法律事務所 弁護士)

### 特別講演

Mauri Lepantalo (Vascular Surgery Helsinki University Central Hospital)  
Alexander W. Clowes (Department of Surgery University of Washington)  
Sriram S. Iyer (Lenox Hill Hospital)

### 教育講演

「臨床研究計画にあたり考慮すべき統計学的要点」  
赤澤 宏平(新潟大学医歯学総合病院 医療情報部)  
「外科医のためのマイクロサージャリーの基本手技—pitfallと工夫—」  
中西 秀樹(徳島大学 形成外科)  
「脈管疾患のCT診断の発達と展望」  
栗林 幸夫(慶應義塾大学医学部 放射線科学教室)  
「ステントグラフトの中間期成績から学ぶ将来展望」  
川口 聡(東京医科大学 血管外科・心臓血管病低侵襲治療センター)

### シンポジウム

「多発性動脈病変に対する治療選択 -hybridかバイパスか-」  
「血管内膜肥厚制御の基礎と臨床」  
「ステントグラフト治療の中間期成績(胸部・腹部)」  
「血管新生療法の前線、エビデンスはあるか？」  
「各種脈管画像診断の進歩と将来展望」

### パネルディスカッション

「高齢者(特に85歳以上)動脈疾患治療の適応と成績」  
「脈管に関する遺伝子治療の効果と適応」  
「足趾、肢切断後のQOL改善」  
「大腿・膝窩動脈領域の血管内治療成績向上のための工夫」  
「脈管疾患と医療安全」

### 一般演題(口演、ポスター)

## インターナショナルセッション

- Stephen W.K. Cheng**  
(Department of Surgery The University of Hong Kong)
- Leong Yew pung**  
(Sunway Medical Center)
- Niaz Ahmed Choudhury**  
(Department of vascular Surgery BSM Medical University,Dhaka)
- Shoei-Shen Wang**  
(Division of Cardiovascular Surgery National Taiwan University Hospital)
- Young Wook Kim**  
(Department of Surgery School of Medicine SungKyunKwan University)
- Sopon Jirasiritham**  
(Department of Surgery Faculty of Medicine, Mahidol University Ramathibodi Hospital)
- Dong-Ik Kim**  
(Department Surgery School of Medicine Sungkyunkwan University)
- Jeong-Hwan Chang**  
(Division of Cardiovascular and Transplantation Department of General Surgery Chosun University Medical College / Chosun University Hospital)
- Jang-Sang Park**  
(Department of Surgery kang-Nam St. Mary's Hospital College of Medicine The Catholic University of Korea)
- Fan Jing**  
(Department of Endocrinology & Vascular Surgery Xi'jing Hospital Fourth Military Medical University)
- Wang Ling**  
(Department of Endocrinology & Vascular Surgery Xi'jing Hospital Fourth Military Medical University)

## ランチョンセミナー

8セッションを予定

## スポンサーシンポジウム

1セッションを予定

## 市民公開講座

## Japanese College of Angiology Award(JCAA) (基礎、臨床部門)

第51回日本脈管学会では、独創的な臨床および基礎的研究の奨励と若手研究者の育成を目的として、Japanese College of Angiology Award (JCAA)を選定します。

【事務局】旭川医科大学 外科学講座

【運営準備室】日本コンベンションサービス(株)北海道支社内  
〒060-0807 札幌市北区北7条西1丁目1-2 SE山京ビル6F  
TEL:011-738-3503 FAX:011-738-3504  
E-mail: jca51@convention.co.jp

## 抄 録

### 「当院における下肢虚血壊死による切断症例の検討」

今井崇裕<sup>1</sup> 齊藤精久<sup>2</sup> 青木昭美<sup>3</sup> 武井誠<sup>2</sup> 植田康夫<sup>4</sup> 吉岡伸夫<sup>2</sup> 高比康臣<sup>2</sup>

- 1 西の京病院 血管外科
- 2 西の京病院 内科
- 3 西の京病院 透析センター
- 4 西の京病院 整形外科

### 要旨:

【目的】当院における下肢虚血壊死に対して行った切断症例の背景因子と予後について検討した。

【対象および方法】2005年4月から2007年3月の3年間に当院で虚血性壊死に対して下肢の切断術を受けた25例29肢を対象とした。男性15例、女性10例で、平均年齢は69.4歳であった。調査項目は年齢、性別、切断高位、基礎疾患、再切断の有無、予後とした。

【結果】切断高位は大腿切断が3例、下腿切断が6例、足部切断が16例であった。そのうち再切断症例に至ったものは11例であった。基礎疾患は糖尿病(DM)が15例、閉塞性動脈硬化症(ASO)が10例、両疾患合併3例、慢性腎不全合併による透析施行が15例であった。初回手術からの生存率は1年68.0%、2年36.0%、3年16.0%であった。とくに慢性腎不全合併による透析施行例の生存率は1年46.6%、2年6.6%、3年0.0%と生命予後が不良であった。

【結語】3年間の当院における下肢虚血壊死に対しての切断術症例の検討を行った。とくにASO、DMおよび慢性腎不全による透析施行を合併した症例では生命予後が不良であり、重症虚血下肢の早期発見と基礎疾患の治療が重要であると考えられた。